

視察等報告（復命）書

三次市議会議長 様

報告者氏名 掛田 勝彦

下記のとおり、視察が終了したので報告します。

	会派代表者	掛田 勝彦	経理責任者	増田 誠宏
視 察 議 員	掛田 勝彦			
期 間	令和5年8月24日（木）～ 令和5年8月24日（木）			
視 察 先	東京都千代田区有楽町1丁目12-1 新有楽町ビル2階			
視 察 用 務	財政基礎研修 Level 3 あなたのまちの財政比較分析論			
視察先対応者	地方議員研究会セミナー事務局			
概要及び所見	<p>講師 立命館大学政策科学部教授 財政学 特に地方財政と公共政策が専門で日本財政学会理事の森 裕之先生の研修会を受講する。</p> <p>本研修会の受講目的として、財政は反復が大事であり繰返し学習することが必要だと思っている。この3年間、レベル1から順次受講してきた。今回はその延長線上でレベル3の内容で参加自治体に関する内容を受講した。自治体の財政が厳しく破綻を予見するような報道を聞くことがある。このことは行政側だけの責任ではなく、毎年議会が可決してきたことによって、その結果として財政破綻に繋がることもあるわけで、議会の責任は極めて大きいと考える。そうならないためにも議員として財政について学習することが必要だと思い受講した。</p> <p>(内容) 14:00～16:30</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対策の現状と自治体財政 ・財政健全化に向けた国の動きと見える化 ・自治体の税収減の課題と対策 ・持続可能な財政のために議会から指摘を 			

令和3年度の財政状況資料集を活用して集中的に財政分析を行った。(令和2年度を活用したケースもある) 有形固定資産減少率の分析欄を見ると、類似団体と比較して高い水準にある。令和元年度は前年度末と比較して道路や橋梁などのインフラ資産の減価償却率が増加したため、固定資産減価償却率は1.4%上昇している。これは三次市の記述である。

情報の分析欄を見ると類似団体と比較して特に有形固定資産減価償却率が高い施設は、体育館・プールでありプールについては、90%近くが耐用年限を超えており、体育館については昭和60年前後に建築された施設が多いことから特に償却率が高くなっている。また、類似団体と比較し低い施設である市民会館は、平成26年度に建設した三次市民ホールが比較的新しいため償却率が低くなっている。一人当たりの面積については、類似団体と比較してほとんどの施設が高い数字になっている。本市は市町村が合併したことにより機能の重複した施設が多く、人口規模の割には多くの公共施設が配置され類似団体よりも資産保有量が多くなっていることが要因である。償却率が高いのはデラックスのものを作っているのではなく合併して足し合わせたら面積が大きくなつたことが示している。令和元年度は前年度末と比較して施設の長寿命化に伴う資産の増加と人口減少の影響により、住民1人当たりの資産額はさらに増加している。施設が増え人口が減少すると1人あたり面積が大きくなる。普通に見たら良いよう見えるかもしれないが、使わないものを抱えているとも言える。使わないものを抱えていると維持管理はかかる。本来、それを民間に売却できれば土地は売れるし作った施設から固定資産税は入ってくるし、住民が住んだら住民税も入ってくる可能性がある。その発生が阻害されていることを意味する。施設が多いと必ずしも言い訳ではない。

資産保有量が多いと住民サービスが充実していると言えるが、その反面施設の維持管理や更新等のコストがかかり結果として財政状況を圧迫すると言った慎重な記述になっている。今後は人口減少や施設維持コストの増加に対応するため適正な資産規模を目指し新規整備の抑制や施設廃止・集約・複合化等公共施設管理計画に基づき資産保有量の減少に取組む必要がある。

施設情報の分析論で、特に有形固定資産減価償却率の1人当たりの公営住宅は比較的低いし面積も大きい。合併前の各自治体がもっていたものが足し合わせたらさらに大きくなつた。どう対応するかでお金のかかり方が全然違つてくる。全部建替えたら相当お金がかかる。でも減らすことで財政負担が少なくて済むということになる。このような判断が求められることにつながる。これは大変な判断になると思う。

今回学習した財政状況資料集の各分析欄をみると、三次市の財政状況がよく理解できる。平成の大合併から20年が経過しようとしているが、三次市の行財政を見ていると、合併自治体のしんどさが典型的に表れている自治体になっている。その点を行政と議会でまず共有することが大事であると強く思った。